

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会 長 蓮 澤 浩 明
(公 印 省 略)

麻しん患者の発生について (第 6 報)

さて、本県における麻しん患者の発生については、令和 7 年 8 月 22 日付福県医発第 1327 号 (地) にて貴会宛てご連絡したところです。

今般、8 月 28 日に久留米市保健所管内において麻しん患者が 1 名発生 (8 月以降に県内で 17 例目) したことを受け久留米市よりプレスリリースされましたのでご連絡いたします。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知の上、貴会会員に対し下記についてご留意いただき、麻しん患者の発生予防及び感染拡大防止にご協力いただこう、周知方よろしくお願いいたします。

なお、県内で確認された患者のうち、公共交通機関や公共スペース等の利用が確認されていない事例については、プレスリリースが行われていないことをご留意ください。

記

1 麻しん患者の診療に係る留意事項

- 麻しんは発症前日から発疹出現後 4-5 日頃まで感染力があるとされています。特に予防接種を受けていない接触者は感染のリスクが高くなります。潜伏期間は 10-12 日とされていますが、麻しんワクチンを受けた後に発症する修飾麻しんでは、潜伏期間が延びることが知られています。
- 麻しんに特徴的な症状が現れた方は、事前に医療機関に電話で連絡することとなっております。
- 発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻しんの予防接種歴の確認を行うなど、麻しんの発生を意識した診療をお願いします。
- 麻しん患者 (疑い含む。) の診療にあたっては、個室管理を行うなどの院内感染対策を実施してください。
- 麻しん患者を診断した場合は、臨床診断例や検査診断例にかかわらず感染症法第 12 条第 1 項の規定に基づき最寄りの保健所へ、直ちに届けてください。なお、保健所から遺伝子検査のために検体提出を求められることがあります。
- 麻しんの定期予防接種 (第 1 期: 1 歳児、第 2 期: 小学校就学前の 1 年間) の対象で、未接種の方には、予防接種の勧奨にご協力いただきますようお願いいたします。なお、令和 7 年 3 月 26 日付文書福県医発第 3367 号 (地) にてご連絡のとおり接種対象期間が令和 8 年度末まで延長されておりますことを申し添えます。

記者発表資料

麻しん（はしか）患者の発生について

令和7年8月28日、久留米市保健所管内の医療機関から麻しんの発生届がありましたのでお知らせします。

1 患者の概要

- (1) 年代：10代、柳川市居住、海外渡航歴なし
- (2) 主な症状：発熱、発疹、コプリック斑、結膜充血、咽頭痛
- (3) 発症日：令和7年8月22日
- (4) 発生届出年月日：令和7年8月28日（検査確定：令和7年8月29日）
- (5) ワクチン接種歴：不明
- (6) 現在の状況：入院中（軽症）

2 患者が利用し不特定多数と接触した可能性のある施設及び公共交通機関

[利用した施設・公共交通機関]

調査中

※調査の結果、患者が不特定多数の方と接触した可能性が確認された場合には、改めて施設等を公表します。

3 行政の対応

保健所にて患者への疫学調査、受診医療機関等における接触者への健康観察を実施しています。

《市民の皆様へ》

- 麻しんは予防接種で防げる病気です。麻しんの定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）の対象で、未接種者の方は、かかりつけ医に相談し、予防接種を受けましょう。
- 麻しんを疑う症状（別紙参照）が現れた場合は、事前に医療機関に連絡の上、マスクを着用し、公共交通機関の利用は避けていただき、速やかに受診してください。

【報道機関のみなさまへ】

報道機関各位におかれましては、定期予防接種の未接種者への接種勧奨に係る報道へのご協力、及び患者・患者家族等が特定されないことがないよう、提供資料の範囲内での報道についてご配慮をお願い致します。

久留米市保健所保健予防課 倉富・金納

TEL 0942-30-9730

FAX 0942-30-9833

麻しん（はしか）について

- 麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによる感染症です。
- 感染経路としては、空気（飛沫核）感染のほか、飛沫感染、接触感染など様々な経路があり、感染力はきわめて強いです。
- ほぼ100%の人に症状が現れますが、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われていています。

《症状》

- 麻しんウイルスに感染して10～12日後に、発熱や咳などの症状が現れます。
- 38℃前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感、上気道炎症状（咳、鼻水、くしゃみなど）、結膜炎症状（結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど）が現れて次第に強くなります。
- 発疹が現れる1～2日前ごろに口の中の粘膜に1mm程度の白い小さな斑点（コプリック斑）が出現します。コプリック斑は発疹出現後2日目を過ぎるころまでに消えてしまいます。
- コプリック斑出現後、体温は一旦下がりますが、再び高熱（39.5℃以上）が出るとともに、赤い発疹が出現し全身に広がります。
- 発疹出現後3～4日で回復に向かい、合併症がない限り7～10日後には主症状は回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹ると重症になりやすく、体力などが戻るのに1か月くらいかかることも珍しくありません。
- 麻しんに伴って肺炎、中耳炎、脳炎などさまざまな合併症がみられることがあります。特に脳炎は、頻度は低い（1000人に1人）ものの死亡することがあり、注意が必要です。

《感染予防とまん延防止のために》 ～一人ひとりが気をつけましょう～

- 麻しんは、感染力がきわめて強いことから手洗いやマスクのみでの予防はできませんが、予防接種（ワクチン接種）を行うことによって、95%以上の人が免疫を獲得し、予防することができます。
- 予防接種は、自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも有効です。
- 医療・教育関係者や、海外渡航を計画されている方は、麻しんの罹患歴や予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種を検討してください。
- 麻しんの予防接種歴がない方で、発熱、咳、鼻水、眼球結膜の充血等麻しんに特徴的な症状が現れた方は、事前に医療機関に電話で連絡し、指示に従って受診して下さい。その際、症状出現日の10～12日前（感染したと推定される日）の行動（海外の流行地や人が多く集まる場所へ行ったかどうか等）について、医療機関にお伝えください。

《麻しんの予防接種について》

～1歳になったら1回、小学校入学前の1年間にもう1回予防接種を受けましょう～

「生後12月から生後24月に至るまでの間にある者」及び「5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者」は、予防接種法に基づく定期の予防接種を受けることができます。

※ 接種を希望される方は、お住まいの市町村予防接種担当課にお問い合わせ下さい。

※ 定期の予防接種の対象者以外の方で、麻しんの予防接種を希望される場合は、予防接種法に基づかない任意の接種で受けることができます（費用は自己負担となります）。医療機関の医師にご相談ください。

○ 麻しんの流行がみられる国に渡航される方は、予防接種をご検討ください。なお、海外の流行情報は検疫所のホームページ（<http://www.forth.go.jp/>）で確認することができます。

《参考情報》

麻しんについて（厚生労働省ホームページ）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekakukansenshou/measles/index.html

麻しんとは（国立感染症研究所ホームページ）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/518-measles.html>